

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571500406		
法人名	医療法人耕和会		
事業所名	グループホーム太陽の丘		
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字木原5886-4 (電話) 0985-85-8668		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月16日	評価確定日	平成21年8月28日

## 【情報提供票より】 (平成21年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤22人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,430 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 430 円
	夕食	430 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年6月1日現在)

利用者人数	27名	男性 3名	女性 24名
要介護1	9	要介護2	6
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	2	要支援2	1
年齢	平均 86.96歳	最低 61歳	最高 99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	迫田病院、さきやま歯科医院、希望ヶ丘歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットの各館は、平屋の和風づくりが外観だけでなく、いろいろのある居間、障子や格子戸の間仕切りなど、利用者は昔懐かしい思いを感じ、落ち着いた日々を送っている。大学病院や住宅が近景ではあるが閑静な高台にあり、車に注意を払うこともなく安心して広い敷地を散歩することができる環境にある。看護師が各館に勤務し、介護と看護の両方から、また、隣接の介護老人保健施設や運営者の医療機関との連携も得られ、利用者の安心、安全な生活の継続に力が注がれている。町の高齢者保健福祉計画策定や地域密着型サービス運営委員として、行政に専門的立場からの提言を行うとともに、ボランティアや学生実習の受け入れ、更には講師としても積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について、全職員で話し合い、改善計画書の優先順位に基づき改善が行われた。しかし、運営推進会議の開催は、年間2回しか開催されず、会議としての期待される広がりがあった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	各館の全職員が自己評価したものを3館の責任者が比較評価する、2段階評価で、それぞれの取組みの状況から、できていることや課題が明らかになり、3館が目指す方向性を共有することができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価の報告、事業計画と実施状況、運営推進会議で出された意見の結果報告が主な討議内容である。委員から「職員の異動したことがわからない。」との意見から、玄関に職員の顔写真を掲示することになり、利用者や家族からも好評を得ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常的には家族の来訪時に、声をかけ利用者の暮らしぶりを報告し、気軽に話しやすい雰囲気作りをしている。年3回の家族会では、家族だけで話し合うことで意見や要望が出しやすい時間を設定し、出された内容を運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者とともに、地域の行事には年間を通して積極的に参加している。事業所の夏祭りには地域の人々を招待したり、地区の販売所で買い物をして地域の人々との交流を築いている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々とのふれあいを大切に、利用者が地域の中で暮らし続けることを支える事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はわかりやすい表現で、目につきやすい色彩にしてあり、玄関や居間に掲示されている。職員は理念の共有と実践のために、認知症の理解やケアの勉強会が繰り返し行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者とともに、地域の行事には年間を通して積極的に参加し、マラソン大会には職員も走者として参加、また、事業所の夏まつりには地域の方を招待するなど交流がある。散歩途中のあいさつや、みかん農家からみかんを頂くなど、地元の人々とのふれあいが日常的に行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価の意義を確認し、各館ごとの評価を全館で比較評価する2段階評価に取り組み、各館ごとのあり方が具体的に把握できることとなった。前年度の外部評価を公表し、改善事項も職員全員で検討され、全ての項目の改善が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にはパワーポイントを使用して、利用者の状況や外部評価の報告が行われ、意見や要望を引き出し委員会への相談が行われているが、委員の日程調整上の理由で2回しか開催できなかった。管理者も運営推進会議を通した広がりがないと評価している。	○	運営推進会議はグループホームの必須基準であり、開催行事や家族会に併せるなど、多くの委員が参加しやすい環境を検討し、概ね2か月ごとに開催されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内に唯一の認知症対応型共同生活介護事業所であることや、町の高齢者保健福祉計画策定や地域密着型サービス運営委員として、双方向に連携があり、利用者のサービス提供に生かされている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「サンひるだより」と利用明細書を郵送するとともに、家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりなどを報告している。職員の顔写真が玄関に掲示され、異動時は「サンひるだより」でも報告されている。預かり金は個人ごとに記載し、家族が確認・署名している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、苦情等を表せる窓口として、職員や第三者機関、気づき箱等について説明しているが意見等は少ない。そのため年3回の家族会案内の出欠票に意見や要望記入欄を設けている。家族からの意見を取り入れ、玄関に職員の顔写真を掲示したところ好評である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員で支援が受けられるようローテーションを組む一方、利用者が自由に他館に行き来できるようになっており、職員も他館の利用者と接点ができる環境である。職員の離職予防や働きやすい環境を目指して、努めて職員の個別面接を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員は、人事考課に反映される自己評価で目標を設定している。上位資格取得のための研修なども希望を出すことができ、計画的な研修に参加できる仕組みがある。年2回の各上司によるヒアリングが実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や交流の場に積極的に参加したり、インターネットを通して情報収集し、サービスの質の向上に生かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば本人との面接や、ホームの見学や食事に同席してもらう等、雰囲気や職員になじめる工夫をしている。家族が寄り添うことで不安が解消されるときは、家族も宿泊できる体制がある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、料理のコツや味つけなどを利用者から教えてもらうことが多い。所作等を通して、職員は作法や礼儀など人間関係に必要なことを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話や動作から、本人の希望や意向を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員だけでなく本人及び家族、友人などの意見や情報を基に、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月、6か月ごとに評価、見直しを行い、必要な場合には随時の見直しが行われ、新たな介護計画が作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	全館に看護師が勤務し、介護と看護の両方で利用者の安心安全が図られている。職員との外出のほか、家族との外出や外泊を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により掛かりつけ医は決められている。協力医及び協力歯科医の訪問診療はインフォームドコンセント（説明・同意）が得られた利用者に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時の重要事項説明書の中でホームの方針は説明されるが、職員全員が方針を共有するには至っていない。終末期看護の研修や介護老人保健施設の看取り委員会に参加するなど、全員で共有できるよう努めている。	○	重度化や特に終末期の希望を尊重するには、全職員が方針について共有していることが必要であり、更なる取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人が希望する名前の呼び方や、調査員の居室拝見時の言葉かけや対応にも配慮されていた。開放的な造りの事務所から個人情報の漏えいを防ぐために、個人記録ファイル名が数字化されるなどの対策が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの大まかなタイムスケジュールはあるが、無理に合わせるのではなく、本人の意思や希望を尊重して、散歩、自室でのくつろぎ、会話などが支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、配ぜん、後片づけ等、利用者の力を引き出しながら職員とともに行っている。職員は利用者と一緒に、さりげなく介助しながら楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に毎日入浴できるが、体調や気分によって、入りたい時、入っている時間において、状態に応じた支援が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族会、ドライブ、誕生会、季節の行事など楽しみや喜びを感じてもらえるよう計画されている。洗濯物干しや洗濯物たたみ、菜園の収穫など、利用者が役割を持って過ごせる支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、散歩や直売所への買い物、車いすでの散策など、戸外に出かけられるよう支援されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を十分理解している。日中は玄関や居室及び敷地内の門扉も全て鍵をかけず、利用者が他館にも自由に行き来することができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の火災時の避難訓練の実施、地震を想定した防災研修会実施、職員の防災指導者認定研修受講など、積極的な取り組みが行われている。ホームは指定福祉ゾーン内にあり行政や消防団の協力体制がある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、一人ひとりの状態を把握している。状態に応じて食事形態を変え、必要量が取れるよう努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、不快な音や光、臭気もない。居間には懐かしいいろりが置かれていたり、七夕飾りもあり、季節感が取り入れられている。中央館の浴室からは、樹木の茂る風景が広がっており、入浴が楽しめる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があるが、利用者の好みや個性で部屋づくりが行われ、なじみのたんすや仏壇、ソファが持ち込まれたり、家族の写真が置いてあるなど、それぞれの思いが醸し出されている。		

※  は、重点項目。